

見通しを持って、友だちといっしょに意欲的に取り組む子

鹿田 祐子

はじめに

作業や既に体験したことのある活動であればかなり意欲的な動きを見せるK男、信頼関係を結んだ特定の大人との1対1の関わりの中ではかなり豊かなやりとりや意欲的な活動ができるK男。しかし、クラスの中では友だちの様子を黙って見守っていて、友だちに対して自分から思っていることを表現したり働きかけたりすることはあまりみられない。また、先生に対しては、自分の思いを自分から話しかけてくることもあるが、問い返されたり先生の方から何か指示されたりした時には、黙りこんでしまったり無視してその場を離れてしまったりすることがある。

このようなK男に対して、K男なりの表現でよいからいろいろな人とやりとりをさせ、特に友だちとのやりとりや関わりあいをもたせるなかで、少しずつ人間関係を広げ、社会性を伸ばしていきたいと考えた。その取り組みについて述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和53年4月12日生まれ 15歳 ダウン症 男子
出生後、鎖肛の手術を受ける。
- ・J保育所にて3年保育
- ・公立J小学校普通学級に入学、1年時に先天性心臓病の手術を受ける。
2年時より心障児学級に入る。
- ・平成3年 本校中学部に入学
- ・家族は両親と妹(小4)の4人、家族全員が愛情と理解を持って本生徒と接している。
両親は自営業に従事しているため、小学生の時より家庭教師(遊び相手)をたのみ、本生徒に様々な体験をさせている。

(2) 諸検査による実態

- ・津守式乳幼児発達検査

運動 5 : 0	探索 3 : 6	社会 5 : 0	生活習慣 7 : 0	言語 5 : 6
----------	----------	----------	------------	----------

- ・S-M社会生活能力検査 SA 6 : 10

身辺自立 6 : 6	移動 8 : 4	作業 8 : 0	意志交換 6 : 8	集団参加 6 : 8	自己統制 6 : 10
------------	----------	----------	------------	------------	-------------

- ・コミュニケーション・サンプル 説明・自分なりに納得し、一人言を言うことが多い。言ったことが相手に伝わりにくく、会話に発展しにくい。

(3) 行動・コミュニケーションの特性

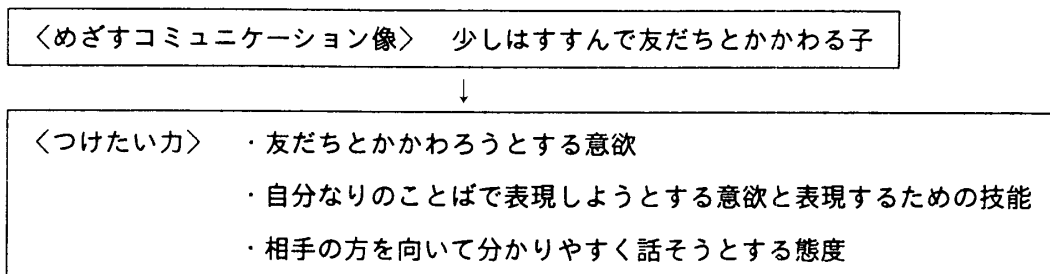
- ・先生や友だちの話を聞いたり、まわりの状況を見たりして、話の内容はだいたい理解できるが、それに対して意思表示したり行動化したりするにはやや時間を要する。
- ・身体を動かすことを好むが、一人でしていることが多い。
- ・おとなしく、自分から友だちに話しかけたり働きかけたりすることは少ない。
- ・自分なりに伝えたいと思っている内容や気持ちは持っていて、そのような時には執拗に繰り返し話をする。しかし、発音が不明瞭で分かりにくかったり、その場にそぐわないことを繰り返して制止をしてもきかないことがある。
- ・姿勢が悪く、顔をあげ相手の方をむいて話をするのができにくい。

2 取り組みの構想

前述の様なK男に対し、まずは、「問われたことにははっきりと応答する子」というめざすコミュニケーション像をたてて1年間取り組んだ。あまり効果的な指導もできないまま、今年度も同様のめざす像にむかって取り組み始めたところ、1学期後半のミニキャンプの単元において、班長に自ら立候補するというこれまでのK男からは考えられないことが起こったのである。そこでこの機会をとらえて、K男につけたかった社会性、特に友だちとの豊かな関わりをもたせるための取り組みを考え実践することにした。

(1) 指導仮説

クラスの枠を越えた縦割り班のリーダーとして、K男のもっている豊かな経験を生かしながら、見通しを持って取り組ませる。このことより、自信をもって意欲的に活動でき、班の友だちへの関わりも少しずつ自発的にできるようになると考えられる。そして、人間関係が広がり、自分の思いを人に伝えることの満足感を味わわせることにより、より意欲的に見通しをもって生活全般に取り組めるようになるのではないかと考えた。



(2) 指導方針

- ① リーダー等の責任のある立場を与え、意思表示や発言などをする場をできるだけ多く設定する。
- ② 具体的で短い言い方などを提示して、模倣させたり発言のきっかけとさせたりし、話すことに慣れさせる。
- ③ 自信を持って活動したり、発言したりできるよう、事前の声かけや指導をしてあたためておく。

3 指導の実際

(1) 生活単元学習における取り組み

体験に基づいたK男なりの見通しや思いはもっているのだが、それを友だちや先生に伝えようとして、活動を通して自分から働きかけたりしようということがあまり見られなかったK男。5月の学級単位で行われた「野外炊飯」の単元においても、K男の興味のあるかまど作りや火の番をしたいという思いは明確で、その意思表示もスムーズにできた。しかし、今年のかまどの持ち運びがしやすいように一斗缶で作ることになり、金切りばさみを使ってやるよう指示されたところ、K男は缶切りでしたいという思いがあるがそれをことばにすることができず、じっと黙って座りこんでいた。K男の指さしで先生に気付いてもらい「缶切りでしたいの。」とたずねられ、やっと作業に取りかかれた。また、当日も、やる気は十分なのだが木の組み方や火のつけ方が上手いかず、燃やすことができなかった。にもかかわらず、先生に声をかけられるまで友だちや先生にたずねたりすることもなく、黙々と一人で火をつけようとしていた。

このようなK男が、7月のミニキャンプの単元に入り、1年から3年までのクラスの枠をといた縦割りグループでの活動に入った時、自発的に班長に立候補したのである。中3だということですからと班長に決まったが、班別活動になると班の友だちに声をかけられなかったり、何か言ってもことばが不明瞭なこともあって通じなかったりしてK男の黄班は立ち往生することが多かった。

活動内容	K 男 の 様 子
・テントはり	おぼろげながらだがテントの張り方を知っているK男。しかし、班の友だちに声をかけられないのでどうすることもできない。先生に「〇〇君～をして。」と言えばよいのだという声かけを受けるが名前を覚えていない。「A男君支柱を持っています。」と具体的に教えてもらって言うが、ことばが不明瞭でなかなか相手に通じなかった。先生の補助を受けながらやっと張り終えた。
・食事の計画	O男と2人で焼きそばを担当、手順や材料、分担を話し合う時、声をかけることができず2人がむかいあってそれぞれ計画を立てており、先生の補助を受けやっと相談をはじめた。
・連絡事項の伝達	チーフの先生からの連絡を班員に伝えることができず、たずねられても黙りこんでしまった。

問題点ばかり目につく活動だったが、本人に問題意識はなくK男なりに満足してこの単元を終えた。

2学期に入り、運動会のための応援旗作りと運動会当日、そして10月の「大山林間学校」の単元は同じ縦割り班で活動することになった。2学期は、ミニキャンプでの反省を生かし、K男の課題である友だちへの働きかけ、意思表示などをせざるを得ない場を継続して与えるため、意図的にK男を班長に促した。K男自身、班長を引き続きやる気はあったので、「大山林間学校」をむかえるにあたり、保護者をお願いして大山に下見に連れて行ってもらったり、前もって話し合うことを打ち合わせ、話し合いの仕方のマニュアルをノートに書いて見通しを持たせるようにして班別活動に臨ませた。話し合いを進めたり、校外に出た時に指示をだしたりすることにはかなり補助を要し、言ったことが



下見の話をするK男

班の友だちに通じなかったりしたことはあったが、K男なりに班長としての自覚をもち、これまでのK男からは考えられないような積極性が見られる場面もあった。

活動内容	K男の様子
・話し合い	マニュアルを作ると書いてある文字にこだわりノートに顔をつけて読もうとするのでかえって言っていることが通じにくかった。話し合うことを板書し、あとはその都度指示を出すようにしたら、回数を重ねるにつれ大きな声で言えだした。しかし、班の人の意見を聞いても、まとめでは自分の意見を通すようなこともあった。
・校内宿泊	先生の指示を復唱するような形で指示を出した。分かりにくいこともあったが、大きな声で友だちに伝えようという意欲は見られた。夕食時は自分の提案した店で食べることになっていたのうれしそうに店まで案内してくれた。
・大山林間学校	下見に行った時の写真を持ってきており、行きの中のバスの中でマイクを持ち長々と紹介してくれた。途中からは関係のない話もでてきたが、とても生き生きと話していた。大山寺での買い物時、別行動をとろうとする先生と友だちを自分から制止し、班の皆と一緒に行動するよう言った。学部の代表として、トムソーヤ牧場であいさつをしたが不明瞭だった。

(2) 課題別学習での取り組み－「口の体操」を中心として－

K男が所属するA3グループは、発音発語の訓練と生活に密着した内容を取り挙げ、具体的な活動を通して基礎的な力をつけることの2本柱をたてて学習に取り組んでいる。

K男は話すことに抵抗があるだけでなく、言語も不明瞭でせっかく言っても上手く伝わらず問い返えされたりすることから、ますます話したがらなくなっている面もあると考えられる。そこで「口の体操」として「あごの運動」「唇の運動」「舌の運動」を毎回行っている。K男は、かなりスムーズにこの体操をこなしているが、「唇の運動」で唇をつき出したり（う）横にひいたり（い）、唇を閉じて頬をふくらましたりへこましたりするの、少し難しい。また、K男は発声持続時間がかなり短いという問題ももっているため、発声時間を長くする活動も取り入れ、最初4秒しか続かなかったものが8秒まで続くようになってきている。今後は、一音ずつはっきりとゆっくり発音するような取り組みもしていき、K男の思いが相手に伝わる喜びを味わわせていきたい。



口の体操をするK男

(3) 家庭との連携

前述の様に、K男の家庭は家族が一丸となってK男をバックアップする姿勢が見られる。生活ノートや学級だよりにもきちんと目を通し、家庭での様子、悩みなども率直に伝えてくるので、K男に対して学校と家庭が同一歩調で接していきやすい。大山林間学校の実施に先がけて、学校の要請を受け、家族で下見に行き、大山林間での班長としての積極的な言動を引き出す大きな力となった。

4 考察と今後の課題

中学部最上級生という立場になった意識、これまで3年間積み上げてきた経験の裏付け、さらに継続した縦割り班での活動が相まって、K男の新しい一面が見られたのではないかと考える。この体験、友だちにかかわっていく楽しさ、満足感を大切に、今後の活動に生かしていきたい。